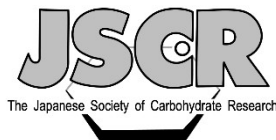


JSCR Newsletter



日本糖質学会会報
JSCR Newsletter published by
The Japanese Society of Carbohydrate Research

2025年度(第28回)日本糖質学会奨励賞 受賞者決定

日本糖質学会授賞選考委員 鈴木 匡

安藤 弘宗

藤本 ゆかり

本年度、第28回日本糖質学会奨励賞が決定しましたのでお知らせします。

この度は糖質学会会員の皆様から優れた候補者の推薦をいただきありがとうございました。選考委員の厳正な審査を経て、理事会にて下記の3名を受賞者として決定いたしました。

受賞者には心からお祝いを申し上げますとともに、今後の益々のご活躍を期待いたします。

なお、授賞式および受賞講演は第44回年会(弘前)にて行う予定です。詳細が決まりましたらお知らせします。

奨励賞

紅林 佑希(静岡県立大学薬学部)

糖鎖との相互作用に着目したウイルス感染機構の解析と制御技術の開発

河村 奈緒子(岐阜大学糖鎖生命コア研究所糖鎖分子科学研究センター)

シアル酸含有糖鎖の化学合成研究と細胞膜のケミカルバイオロジー研究への応用

真木 勇太(大阪大学大学院理学研究科)

糖鎖および糖タンパク質の精密半合成

(50音順、敬称略)

CONTENTS

- | | |
|-----------------------------|--|
| ■奨励賞 受賞者決定 鈴木匡・安藤弘宗・藤本ゆかり◎1 | ■Society for Glycobiology 2025 開催案内 木下聖子◎9 |
| ■第44回日本糖質学会年会 大山 力◎2 | ■JCGG シンポジウム 開催予告 ◎10 |
| ■「令和7年度日本糖質学会総会」開催のお知らせ ◎5 | ■トラベルアワード受賞者 参加報告 ◎11 |
| ■訃報 ◎6 | ■理事会議事録 ◎13 |
| ■遠藤玉夫先生へ感謝と哀悼の意を捧ぐ 北島 健◎7 | ■理事・評議員・名誉会員・顧問・維持会員 ◎14 |
| ■遠藤玉夫先生を偲んで 萬谷 博◎8 | |

第 44 回日本糖質学会年会

1. 開催日および場所

開催日 2025 年 10 月 2 日(木)～4 日(土)(3 日間)

開催場所 弘前文化センター

〒036-8356 弘前市下白銀町 19-4

2. 主催者および組織

主催 日本糖質学会

代表者 第 44 回日本糖質学会年会

世話人代表 大山 力(弘前大学大学院医学研究科先進移植再生医学講座 特任教授・青森県病院事業管理者)

世話人副代表 畠山 真吾(弘前大学大学院医学研究科泌尿器科学講座 教授)

組織委員

世話人(五十音順)

今井 篤(弘前大・医)、岡本 哲平(弘前大・医)、大山 力(弘前大・医)、柿崎 育子(弘前大・医)、

坪井 滋(鷹揚郷腎研究所)、成田 拓磨(弘前大・医)、橋本 勝(弘前大・農生)、

畠山 真吾(弘前大・医)、濱田 茂樹(弘前大・農生)、藤田 尚紀(弘前大・医)、盛 和行(弘前大・医)、

山本 勇人(弘前大・医)、米山 徹(弘前大・医)

Advisory Board(五十音順)

赤間 智也(関西医大・薬)、安形 清彦(創価大・糖鎖生命)、安藤 弘宗(岐阜大糖鎖生命コア)、

井ノ口 仁一(阪大・理)、小川 智久(東北大・農)、川島 博人(千葉大・薬)、

北爪 しのぶ(福島県医大・保)、顧 建国(東北医薬大・分子生体膜)、小林 基弘(福井大・医)、

戸嶋 一敦(慶応大・理工)、飛澤 悠葵(岐阜大・医)、中山 淳(信州大・医)、長束 俊治(新潟大・理)、

野中 元裕(京大・医)、細野 雅祐(東北医薬大・分子生体膜)、松尾 一郎(群馬大・理工)、

三善 英知(阪大・保)

連絡先・事務局: 〒036-8562 弘前市在府町 5 弘前大学大学院医学研究科泌尿器科学講座内

第 44 回日本糖質学会年会事務局(担当: 盛 和行)

年会事務局 E-mail: moribio@hirosaki-u.ac.jp

3. 共催または後援団体など

共催: 弘前大学、公益財団法人鷹揚郷腎研究所、シクロデキストリン学会、日本応用糖質科学会、

日本化学会、日本生化学会、日本薬学会、日本キチン・キトサン学会

協賛: 高分子学会・繊維学会・野口研究所・有機合成化学協会

後援: 日本泌尿器科学会、日本癌治療学会、日本癌学会、日本ケミカルバイオロジー学会、日本農芸化学会

4. 会議の目的:

第 44 回日本糖質学会年会を弘前で開催させて頂けることを大変光栄に存じます。私どもは臨床医学の泌尿器科学講座でございまして、日常診療では腎泌尿器系疾患の外科的治療を担当しております。日々の診療において様々な疑問や問題点が出てきますが、私たちはその疑問や問題を糖鎖生物学的手法で解決しようと考えました。糖脂質、糖タンパク質、プロテオグリカンの生物学的意義を追求し、診断や治療に応用できないかと常に考えながら診療と研究に従事しております。

長い糖質学会の歴史の中で臨床の講座が年会を担当させて頂くのは初めての事ではないかと思えます。そこで、今回のテーマを「糖質科学と臨床医学の融合」とさせて頂きました。普段は個別に研究活動に従事している材料科学研究者と生命科学研究者、そして臨床医学研究者が一堂に会して、活発な情報交換を行い交流を深めて頂きたいと思えます。今回は、一般口頭発表 A、B、ポスター発表、奨励賞受賞講演、優秀講演賞第 2 次審査、ダイバーシティ推進セミナーに加えて、遠藤玉夫先生の御業績を顧みて若手研究者の皆様へのメッセージとする追悼企画、臨床医学と糖鎖科学をリンクする研究に焦点を当てたシンポジウム「Clinical Glycobiology: 現状と展望」を企画させて頂きます。また、特別講演は、Sanford Burnham Prebys の Yu Yamaguchi 先生にご登壇頂きます。さらに、ご参加の皆様にご満足頂けますようエクスカッション、懇親会にも趣向を凝らし、秋の津軽路を満喫して頂けるように鋭意準備を進めております。

臨床の講座ゆえ、至らぬ点多かろうとは存じますが、糖質科学のさらなる発展と隆盛を祈り、実り多い学術集

会にするため精一杯尽力してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

<https://www.jscr44.com/>

5. プログラム概要

【年会の構成】

1 プログラム・セッション

一般口頭発表 A、B、ポスター発表、奨励賞受賞講演、優秀講演賞第2次審査、特別講演、遠藤玉夫先生追悼企画、ダイバーシティ推進セミナー、シンポジウム「Clinical Glycobiology: 現状と展望」、ランチョンセミナー、企業展示、エクスカーショ、懇親会

2 講演要旨集

講演およびポスター発表のプログラムと要旨集を作成

【主要題目】

糖鎖とがん、糖鎖と免疫学、糖鎖と感染症、糖鎖と病理学、糖質の化学、糖質の生化学、糖質の構造生物学、糖質の化学生物学、糖鎖研究とバイオインフォマティクス、糖質の材料科学、糖質の反応と計算科学、糖質科学研究成果の社会実装、産学連携

【日程表】

日程	午前	昼休み	午後
10月2日 (木)	優秀講演賞第2次審査、 口頭発表	ランチョンセミナー	特別講演、ダイバーシティ推進セミナー、遠藤玉夫先生追悼企画、口頭発表、評議員会
10月3日 (金)	総会、ポスター討論	ランチョンセミナー	エクスカーショ、懇親会
10月4日 (土)	ポスター討論、 奨励賞受賞講演	ランチョンセミナー	シンポジウム「Clinical Glycobiology: 現状と展望」、口頭発表

● 予定は変更されることがあります。

6. The Carbohydrate Research JSCR43 ポスター賞

従来の満35歳以下(7月1日時点)を対象とした日本糖質学会ポスター賞に加えて、36歳以上(7月1日時点)を対象とする Carbohydrate Research 誌(エルゼビア)の名前を冠したポスター賞(The Carbohydrate Research JSCR44 Poster Award)を設けます。奮ってご応募ください。

7. 参加登録料

日本糖質学会名誉会員	無料
日本糖質学会永年会員	3,500 円(4,500 円)
日本糖質学会正会員	7,000 円(9,000 円)
日本糖質学会学生会員	2,000 円(4,000 円)
非会員(一般)	10,000 円(12,000 円)
非会員(学生)	3,500 円(4,000 円)

※カッコ内は2025年8月1日以降の参加登録料です。

※共催・協賛・後援学会の会員は日本糖質学会会員と同額の参加登録料です。

8. 託児室について

会期中、託児施設を開設いたします。詳細は HP をご覧ください。

9. エクスカーショ・懇親会

エクスカーショ参加費は4,000円です。HPに掲載のコースの中から選択してください。満席の場合他のコースへ振り分ける場合がございます。懇親会参加費は正会員7,000円、学生会員2,000円です。先着300名です。

いずれも事前参加登録時に同時に参加登録を開始いたします。その他の情報も含めまして HP を随時ご確認ください。

懇親会会場: フォルトーナ 〒036-8021 青森県弘前市和徳町140

10. その他

1 宿泊先確保

年会の翌日 2025 年 10 月 5 日は、弘前アップルマラソンが開催されます。全国から約 5,000 名の参加者があり、前泊により年会中の宿泊先の確保が難しくなる可能性があります。日程表を参考に早めの宿泊先確保をお願いいたします。

2 新幹線確保

JR は、例年この時期に「大人の休日倶楽部パス」を設定し利用者が増えます。新幹線も早い時期に満席になることがあります。日程表を参考に早めの新幹線確保をお願いいたします。その他の情報も含めまして HP を随時ご確認ください。

第 44 回日本糖質学会年会 特別講演者のプロフィール

山口 祐(やまぐち ゆう)先生

山口 祐先生は、1981 年 3 月に東北大学医学部を卒業し、同大学院医学部研究科(産婦人科学)に入学されました。1985 年 3 月に東北大学大学院医学部研究科を修了され、「胎児性フィブロネクチンの研究」で医学博士の学位を取得されました。同年 9 月、米国 Sanford Burnham Prebys Medical Discovery Institute (旧名 La Jolla Cancer Research Foundation)の Erkki Ruoslahti 博士のもとでポストドクトラルフェローをお務めになり、1991 年同研究所にてアシスタントプロフェッサー、1996 年同研究所にてアソシエイトプロフェッサーを経て、2001 年同研究所プロフェッサーに就任されました。研究領域(ほぼ年代順に)は、新規プロテオグリカンの同定、ヒアルロン酸合成酵素 Has2 の同定、ヘパラン硫酸およびヒアルロン酸研究のためのコンディショナルノックアウトモデルの作成、コンディショナルノックアウトモデルを用いたヘパラン硫酸およびヒアルロン酸の神経系および骨格系における機能の解明、Multiple hereditary exostoses の遺伝的および細胞生物学的メカニズムの解明、新規ヒアルロン酸分解酵素 TMEM2 の同定とその機能の解明と多方面に及び、在米 40 年間にわたり活発に研究活動を続けておられます。

「令和 6 年度日本糖質学会 総会」開催のお知らせ

会員各位

日 本 糖 質 学 会
会長 北島 健

令 7 年度通常総会を下記要領で開催いたします。
万障お繰り合わせの上、ご参集くださるようお願い申し上げます。

記

日 時: 2025 年 10 月 3 日 9:20～10:10

場 所: 弘前文化センター 1 階 大ホール

(〒036-8356 青森県弘前市下白銀町 19-4)

議 題: 1) 報告事項

- ① 会員数の推移
- ② 会議の開催
- ③ JSCR Newsletter の発行
- ④ 令和 7 年度・令和 8 年度年会
- ⑤ 第 28 回日本糖質学会奨励賞・第 6 回優秀講演賞・第 26 回ポスター賞

2) 審議事項

- ① 令和 6 年度収支決算ならびに監査報告
- ② 令和 7 年度予算
- ③ 名誉会員・永年会員の推戴

3) その他の議案及び報告事項

本学会名誉会員 鈴木 邦彦 先生におかれましては、2025 年 2 月 12 日にご逝去されました。
ご冥福をお祈り申し上げますとともに、謹んでお知らせいたします。

遠藤玉夫先生へ感謝と哀悼の意を捧ぐ

日本糖質学会会長 名古屋大学糖鎖生命コア研究所 北島健

遠藤先生は2024年、何事もあるはずのない秋の日に閑かにご逝去されました。あまりにも突然で、あまりにも早いお別れに、日本だけでなく、世界中の糖質研究者が深い悲しみに包まれました。遠藤先生は日本糖質学会において、長きに亘り評議員、理事を務められ、会長としてさらに監事として本学会を先導されました。日本糖質学会の会員を代表して、ここに遠藤先生に深謝申し上げるとともに、心からの哀悼の意を捧げます。

思えば、どれほどの研究者が遠藤先生に励まされ、救われたことでしょう。年会のポスター会場であったり、懇親会の中であつたり、口髭がこれほどまでに似合うダンディーな先生が、少しにやりとしながら近づいてきて、「頑張ってるね」とか、「面白いことを見つけたね」とか、「最近、どう？」とくに若い世代の研究者には気さくに声をかけてくださいました。糖鎖研究情報に常にアンテナを張っておられ、「海外の学会で〇〇がこんなことやってたよ」とか、「△△にこんな論文が出ていたけどどうなの？」とか、お声がけくださいました。ハイインパクトジャーナルに糖鎖関連の論文がでると、すぐに「またシアル酸だ」のような一言アラートメールを送って下さったのは、私だけでは無いと思います。

20年以上前だったと思いますが、「コアフコース残基から更に糖残基が伸長する構造を見たことある？」と突然のメールが来ました。当時は見たこともない構造でした。またデアミノノイラミン酸やポリシアル酸の研究にも関心をもってください、我々の研究室からの関連論文には激励の一報を下さいました。とにかく糖鎖構造のひとつひとつに愛情をもって接していることがわかる先生であつたと思います。実際、遠藤先生は糖鎖構造の生き字引で、何が新規構造で何が報告済みの構造であるのかをよくご存知でした。今にして思えば、O型糖鎖としてGlcNAc-Man-Ser/Thrなど一連の構造を発見し、さらに世界に先駆けて構築された新規O-Manワールドそのものが、新規構造に巡り会う幸運を享受できる希有な存在であることを物語っています。科学に祝福された存在、そのように感じざるを得ません。

改めて、遠藤先生について思い起こすことは研究者としての暖かみです。華々しい業績や経歴をお持ちでとても近寄りがたい偉い先生なのに、まったく偉ぶらず、とても身近なところで、私達研究者を鼓舞して下さる存在でした。そんな先生に対して、残された我々ができることは、生き生きと研究する姿を見せることであり、そのことが何よりの恩返しであると思う次第です。

遠藤玉夫先生を偲んで

地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター 萬谷 博

本会名誉会員の遠藤玉夫先生は2024年10月9日に70歳で逝去されました。生涯現役の研究者として精力的に活躍され、亡くなられた当日もご自宅でWeb会議の予定が入っていたほどでした。8月末に肺炎で一時入院された際は心配いたしました。退院後は普通に研究所に通勤されており体調も安定されているように見受けられました。そのため、突然の訃報に接したときには言葉を失う思いでした。

遠藤先生は、1977年に東京大学薬学部製薬化学科を卒業、1982年に東京大学大学院薬学研究科にて薬学博士の学位を取得され、1982年より米国のペイラー医科大学に博士研究員として留学されました。1984年に帰国し、東京大学医科学研究所の木幡陽教授のもとで助手をされたのち、1994年に東京都老人総合研究所糖鎖生物学部門の室長に赴任されました。その後、組織改変を経て東京都健康長寿医療センターとなり、2012年より副所長、2018年より所長代理を務められ、2022年よりシニアフェローとして、生涯にわたり研究に携わってこられました。本学会では評議員・理事・会長を務められ、また日本糖鎖科学コンソーシアムの前会長として糖質科学の発展に尽力されました。その他数多くの学会の要職を歴任され、日本医療研究開発機構(AMED)研究開発事業のプログラムオフィサーや日本学術会議の会員としても活躍されるなど、我が国の研究支援事業や学術振興において指導的な役割を果たされました。

遠藤先生は、木幡先生とともに糖鎖構造解析を専門に研究を進められ、老化や疾患に関わるさまざまな糖タンパク質の糖鎖構造を明らかにされるなど、糖鎖科学の発展に多大な貢献をなさいました。なかでも「哺乳類 O-マンノース型糖鎖」に関する研究は、まさに新時代の糖鎖科学を切り拓く先駆的業績として高く評価されています。1997年、遠藤先生のグループはジストログリカンという膜タンパク質の糖鎖解析を通じて、哺乳類における O-マンノース型糖鎖の存在を初めて明らかにされました。さらに、O-マンノース型糖鎖の合成に関わる酵素である POMGNT1、POMT1、POMT2 を世界に先駆けて同定されました。これらが先天性筋ジストロフィー症の原因遺伝子であったことから、この発見は、「糖鎖異常による筋ジストロフィー症」という新たな病態概念を提唱する端緒となり、その後「ジストログリカノパチー」と総称される疾患群の病因遺伝子が次々と報告される契機となりました。これらの研究成果により、O-マンノース型糖鎖の構造、生合成機構、そして疾患との関連性が国際的にも大きな注目を集めることとなりました。世界的な強豪グループが鎬を削るなか、アイオワ大学のキャンベル教授のグループによりグルクロン酸(GlcA)とキシロース(Xyl)の繰り返しからなるマトリグリカンやコア M3(GalNAc β 1-3GlcNAc β 1

-4(phospho-6)Man-)といったこれまでに全く知られていなかった新しい構造が報告されるなど、遠藤グループも非常に厳しい研究環境に直面しました。しかしながら、2016年には、ついに悲願であったマトリグリカンを含む O-マンノース型糖鎖の完全な構造を明らかにすることに成功されました。この構造には、糖アルコールリン酸の一種であるリボitolリン酸(Rbo5P)が2個含まれており、これも哺乳類においては初めての報告となりました。これらの業績により、2002年に東京都知事賞、2003年に日本薬学会学術振興賞、2007年に朝日賞、2017年に日本学士院賞など数々の賞を受賞されています。

こうした研究成果は、日本学士院賞を共同受賞された国立精神・神経医療研究センターの戸田達史先生をはじめ、国内外の非常に多くの先生方との共同研究の中で築かれてきたものです。遠藤先生はその気さくな人柄から自然と人と人を繋げるように交流の輪を広げてこられました。また研究に対する真摯な姿勢から周囲の信頼も厚く、先生の温かいご助言に励まされてきた研究者の方も数多くいらっしゃると思います。常に第一線で研究を牽引された遠藤先生の姿は、多くの研究者の記憶に刻まれております。先生の探究心と情熱は、我々後進にとって尽きることのない指針であり続けることでしょう。

2025年10月2~4日に開催される第44回日本糖質学会年会では、世話人代表の大山力先生のご配慮により、遠藤先生の追悼企画が催されることとなりました。本企画は愛媛大学の金川基先生と私がオーガナイザーを務めさせていただきます。大山先生から企画のお話をいただいた際には、遠藤先生の木幡研時代からの先輩であり、東京都老人総合研究所では共に幹部として切磋琢磨された古川清先生に相談しました。すると古川先生から「想い出はここまでにして、これからどうこの領域を発展させるか、未来に向けて進んで下さい」と力強い言葉をいただきました。その言葉に深く共感し、今回、「遠藤玉夫先生と歩んだ糖質研究の軌道と未来への展望」というテーマで企画を立ち上げるに至りました。会員の皆様におかれましては、ぜひ会場に足をお運びいただき、共に先生を偲び、未来への歩みを語り合うひとときを共有していただければと存じます。

遠藤先生が生涯をかけて築かれた学問の礎とその精神は、これからも我々の中に生き続けます。改めて心よりご冥福をお祈り申し上げるとともに、これまでのご厚誼とご指導に深く感謝申し上げます。

Society for Glycobiology 2025 開催のご案内

このたび、Society for Glycobiology 2025 が、以下の要領で開催される運びとなりましたので、ご案内申し上げます。

本年は、SFG 会長として、「A World Glyco Expo」とのテーマのもと、米国はもちろん、カナダ、オーストラリア、ヨーロッパ、中国および日本の著名な研究者をご招待し、11 のセッションを設けております。これまでなかった植物や微生物、ケミカルバイオロジーや化学合成のセッションを計画しており、さらに、Pre-meeting として若手向けの Glycopalooza を準備しております。なお、参加者から応募されたワークショップも予定しており、画期的な内容に期待できます。これまでと異なった年会を準備しており、糖鎖科学全般における最新の研究成果を共有し、国内外の研究者間の交流を促進する貴重な機会となります。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

【開催概要】

- 会議名 : Society for Glycobiology 2025
- 開催日 : 2025 年 11 月 9 日 (日) ~ 11 月 12 日 (水)
- 開催地 : [San Diego Sheraton](#)
- 詳細 : Society for Glycobiology Annual Meeting [ホームページ](#)

第 22 回糖鎖科学コンソーシアム(JCGG)シンポジウム 開催予告

会期 2025 年 9 月 19 日(金)～20 日(土)

会場 星薬科大学(東京・品川)

<https://www.hoshi.ac.jp/gaiyou/map/>

世話人 眞鍋史乃、東伸昭、築地信、Methanee Hiranyakorn

実施概要

本シンポジウムの主要テーマは「糖鎖研究エコシステム構築を目指して」と致しました。Richard Cummings 先生による第 5 回 Tamio Yamakawa 賞受賞記念講演をはじめ、最先端研究の先生にご講演いただけることとなりました。基礎化学から疾病との関連、診断、創薬まで、また、オリゴ糖から糖鎖高分子に至るまで学際的に広がる最新成果を共有します。また、全参加者が交流できる懇親会と、多彩なコーヒープレイクを通じて活発なディスカッションの場を設けております。皆様の活発なご参加と議論を通じ、糖鎖科学の新たな未来を共に拓けることを心より期待しております。

•**懇親会**: 星薬科大学百年記念館

•**シンポジウム ウェブページ**: 日本糖鎖科学コンソーシアムのトップページ(<http://www.jcgg.jp>)のシンポジウム・バナーよりアクセスください。

•**問い合わせ先** 第 22 回 JCGG シンポジウム 事務局(梅谷内 晶 他)

メールでお知らせください。

•**E-mail**: sympo-22@jcgg.jp

International Carbohydrate Symposium (ICS2024)参加報告

大阪国際がんセンター・糖鎖オンコロジー部

阿部 純平

2024年7月14日～7月19日に上海国際会議センターで開催された International Carbohydrate Symposium (ICS2024)に参加し、口頭発表を行いました。この度、JSCRトラベルグラントのご支援をいただけたことに関して深く感謝を申し上げます。

本学会は日本からは中国ビザの取得の煩雑さもあってか参加者が例年よりも少なくなりましたが、世界各国からはおよそ1000人程度の参加者が一堂に会しました。学会会場は日本からは上海浦東国際空港へ行き、そこから地下鉄一つで行ける立地であったため移動でそれ程疲れることはありませんでした。学会内容の多くは化学ではありますが、生物関連の内容、一部がん関連の話をされる先生方もおり、幅広く世界の研究に触れることができました。加えて、論文でよく見る著名な先生方

の講演も多くあり非常に魅力ある学会でした。私は現在、化学と生物に関連する研究に携わっているため勉強になりました。ICS2024の口頭発表の会場は4つあり、いずれも多くの聴講者が入ることができます。私は国際学会での口頭発表は初めてであったため写真の会場での発表に緊張しましたが、無事に発表を終えることができました。ポスター会場は人が込み入っていて少し見にくい点はありませんでしたが、発表者は丁寧に対応してくれ、全体でも議論は活発になされていました。学会外では、上海の気候は日本よりも暑く湿度も高かったため少し過ごしにくい点はありませんでしたが食べ物美味しく学会後にリフレッシュすることもできました。本学会に参加することで多くの刺激を受けられました。これを機に今後も研究に励んでいきたいと思います。



上海国際会議センター



口頭発表会場

31stInternational Carbohydrate Symposium (ICS2024) 活動報告

九州大学大学院薬学研究院 寄立 麻琴

本学会のトラベルグラントのご支援をいただき、2024年7月14～19日に上海で開催された International Carbohydrate Symposium (ICS2024) に参加しました。

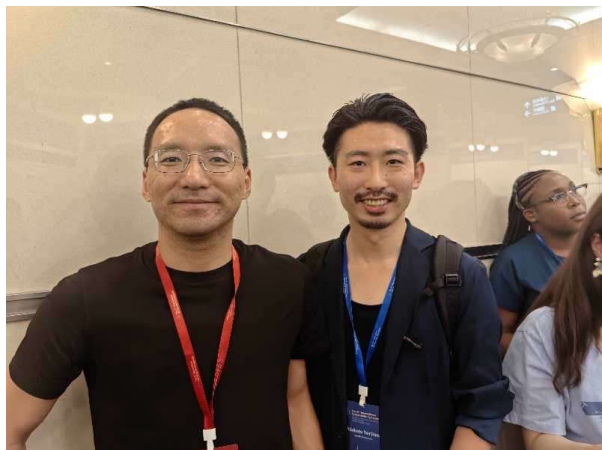
私は大学院時代、慶應義塾大学理工学部にて千田憲孝教授、佐藤隆章准教授のもとで天然物全合成を研究し、ポスドクではUCバークレーのJohn F. Hartwig教授のもとで反応開発に携わりました。糖鎖研究に本格的に関わるようになったのは、2019年に九州大学に着任してからですが、直後に新型コロナウイルスの影響で対面学会への参加がほとんど叶いませんでした。制限が緩和された2023年度にはEurocarb 21 (パリ)、2024年度には本学会に参加することができました。

本学会では、炭素連結型糖アナログの分岐合成法の開発とその機能評価について、口頭発表およびポスター発表を行いました。口頭発表に採択されるか分からなかったため両方申し込んだところ、どちらも採択され、

結果的に多くの研究者と議論する貴重な機会となりました。特に、J. Am. Chem. Soc.誌に関連論文を発表していたこともあり、関心を持っていただけたのではないかと思います。

近年、アジア圏(特に中国やシンガポール)でも糖鎖関連の反応開発が非常に活発であり、本学会にもC-グリコシル化反応を研究する多くのグループが参加していました。特に、本分野への貢献が大きいDawen Niu教授(中国薬科大学)をはじめ、糖化学の分野で世界的に活躍する研究者とのネットワークを広げることができたのは大きな収穫でした。余談ですが、中国では教授クラスの方でもWeChatを交換しようと言ってくるのが新鮮で驚きました。

最後に、JSCRトラベルアワードの運営に携わった皆様、および選考委員の先生方に深く感謝申し上げます。



左：Dawen Niu 教授、右：筆者 @ポスター会場



発表の様子

評議員 (任期 2025. 7. 1～2026. 6. 30)

相川 京子 お茶の水女子大学基幹研究院自然科学系
 赤井 昭二 女子栄養大学応用有機化学研究室
 芦田 久 近畿大学生物理工学部
 荒田洋一郎 帝京大学薬学部
 安藤 弘宗 岐阜大学糖鎖生命コア研究所
 池田 義孝 佐賀大学医学部
 池原 譲 千葉大学医学部
 石水 毅 立命館大学生命科学部
 和泉 雅之 高知大学理工学部
 板野 直樹 京都産業大学生命科学部
 一柳 剛 鳥取大学農学部
 糸乗 前 滋賀大学教育学部
 稲森啓一郎 東北医科薬科大学分子生体膜研究所
 井貫 晋輔 徳島大学大学院医歯薬学研究部
 井原 義人 和歌山県立医科大学医学部
 今村 彰宏 岐阜大学応用生物科学部
 上村 和秀 中部大学生命健康科学部
 大川 祐樹 大阪国際がんセンター糖鎖オンコロジー部
 大谷 克城 酪農学園大学農食環境学群
 大坪 和明 熊本大学大学院生命科学研究部
 大橋 貴生 摂南大学理工学部生命科学科
 大海 雄介 中部大学生命健康科学部
 岡島 徹也 名古屋大学糖鎖生命コア研究所・医学系研究科
 岡本 亮 成蹊大学理工学部理工学科
 越智 里香 高知大学教育研究部
 柿崎 育子 弘前大学大学院医学研究科
 笠原 浩二 東京都医学総合研究所細胞膜研究室
 梶原 康宏 大阪大学大学院理学研究科
 片山 高嶺 京都大学大学院生命科学研究科
 加藤 敦 富山大学附属病院薬剤部
 加藤 啓子 京都産業大学生命科学科
 加藤 晃一 自然科学研究機構生命創成探究センター
 金川 基 愛媛大学大学院医学系研究科
 金森 審子 東海大学工学部
 蟹江 治 東海大学工学部
 樺山 一哉 大阪大学放射線科学学際研究センター
 鎌田 佳宏 大阪大学大学院医学系研究科
 亀井加恵子 京都工芸繊維大学分子化学系
 亀山 昭彦 産業技術総合研究所細胞分子工学研究部門
 川崎 ナナ 横浜国立大学大学院生命医科学研究科
 川島 博人 千葉大学大学院薬学研究院
 北岡 本光 新潟大学農学部
 北川 裕之 神戸薬科大学薬学部
 北爪しのぶ 福島県立医科大学保健科学部
 木塚 康彦 岐阜大学糖鎖生命コア研究所
 木下 聖子 創価大学理工学部

顧 建国 東北医科薬科大学分子生体膜研究所
 小谷 典弘 埼玉医科大学医学部
 坂元 一真 愛知県医療療育総合センター
 佐藤あやの 岡山大学学術研究院
 佐藤 武史 長岡技術科学大学生物系
 佐藤ちひろ 名古屋大学糖鎖生命コア研究所・生命農学研究科
 塩崎 一弘 鹿児島大学水産学部
 篠原 康郎 金城学院大学薬学部
 島本 啓子 公益財団法人サントリー生命科学財団
 清水 史郎 慶應義塾大学理工学部応用化学科
 清水 弘樹 産業技術総合研究所細胞分子工学研究部門
 鈴木 匡 理化学研究所開拓研究本部
 高橋 素子 札幌医科大学医学部
 武内 智春 愛知学院大学薬学部
 竹内 英之 静岡県立大学薬学部・大学院薬学研究院
 竹川 薫 九州大学大学院農学研究院
 武田 陽一 立命館大学生命科学部
 竹松 弘 藤田医科大学医療科学部
 舘野 浩章 産業技術総合研究所細胞分子工学研究部門
 田中 克典 理化学研究所開拓研究本部
 田中 知成 京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科
 田中 浩士 東京工業大学物質理工学院
 田村 純一 鳥取大学農学部
 千葉 靖典 産業技術総合研究所生命工学領域
 榎谷内 晶 創価大学理工学研究科
 戸嶋 一敦 慶應義塾大学理工学部
 戸谷希一郎 成蹊大学理工学部
 苔米地祐輔 東海大学工学部
 豊田 英尚 立命館大学薬学部
 豊田 雅士 東京都健康長寿医療センター研究所
 中川 優 名古屋大学糖鎖生命コア研究所
 中北 慎一 香川大学医学部総合生命科学講座
 中嶋 和紀 岐阜大学糖鎖生命コア研究所
 中野 博文 愛知教育大学自然科学系化学
 中の三弥子 広島大学大学院統合生命科学研究科
 長束 俊治 新潟大学理学部
 西島 謙一 名古屋大学大学院生命農学研究科
 蜷川 暁 神戸大学バイオシグナル総合研究センター
 野上 敏材 鳥取大学工学部
 野中 元裕 京都大学大学院医学研究科
 羽田 紀康 東京理科大学薬学部
 花島 慎弥 鳥取大学工学部
 濱村 和紀 愛知学院大学歯学部薬理学講座
 原田陽一郎 名古屋大学糖鎖生命コア研究所
 東 伸昭 星薬科大学薬学部
 比能 洋 北海道大学大学院先端生命科学研究院
 平井 剛 九州大学大学院薬学研究院

藤田 盛久 岐阜大学糖鎖生命コア研究所
 伏信 進矢 東京大学大学院農学生命科学研究科
 藤本ゆかり 慶應義塾大学理工学部
 藤山 和仁 大阪大学生物工学国際交流センター
 古川 潤一 名古屋大学糖鎖生命コア研究所
 北條 裕信 大阪大学蛋白質研究所
 保坂 善真 九州大学大学院農学研究院
 細野 雅祐 東北医科薬科大学分子認識学教室
 前田 恵 岡山大学大学院学術研究院
 松尾 一郎 群馬大学大学院理工学府
 松岡 浩司 埼玉大学大学院理工学研究科
 松野 健治 大阪大学大学院理学研究科
 松原 輝彦 慶應義塾大学理工学部
 眞鍋 史乃 星薬科大学薬学部
 萬谷 博 東京都健康長寿医療センター研究所
 三浦 佳子 九州大学大学院工学研究院
 水野 真盛 (公財)野口研究所糖鎖有機化学研究室
 三苫 純也 九州保健福祉大学生命医科学部
 宮田 真路 東京農工大学農学部
 宮西 伸光 東洋大学食環境科学部
 三善 英知 大阪大学大学院医学系研究科
 門出 健次 北海道大学大学院先端生命科学研究院
 矢木 宏和 名古屋市立大学大学院薬学研究科
 矢部 富雄 岐阜大学応用生物科学部・糖鎖生命コア研究所
 山口 拓実 北陸先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科
 山口 真範 和歌山大学教育学部
 山口 芳樹 東北医科薬科大学分子生体膜研究所
 山地 俊之 順天堂大学薬学部微生物・免疫学分野
 山田 一作 公益財団法人野口研究所糖鎖情報科学研究室
 山田 修平 名城大学薬学部・病態生化学研究室
 湯浅 英哉 東京工業大学大学院生命理工学研究科
 吉田 雪子 東京都医学総合研究所エビデンス・ロジック

顧 問

一島 英治

維持会員

KHネオケム (株)
 (一財) 杉山産業化学研究所
 (株) スディックスバイオテック
 住友ベークライト (株)
 生化学工業 (株)
 MP五協フード&ケミカル (株)
 東京化成工業 (株)
 (公財) 野口研究所
 (株) 伏見製薬所
 松谷化学工業 (株)
 (株) ヤクルト

名誉会員

池中 徳治	石田 秀治	石戸 良治
伊東 信	伊藤 幸成	稲津 敏行
小川 智也	小川 温子	笠井 献一
門松 健治	川崎 敏祐	木曾 真
北島 健	木下 タロウ	木全 弘治
楠本 正一	木幡 陽	鈴木 明身
鈴木 茂生	鈴木 康夫	隅田 泰生
谷口 直之	西原 祥子	橋本 弘信
深瀬 浩一	古川 鋼一	本家 孝一
村松 喬	山形 達也	山本 憲二

JSCR Newsletter（日本糖質学会会報）Vol. 29, No. 1

2025年6月25日 発行

編集兼発行 日本糖質学会

会長 北島 健

〒103-0014 中央区日本橋蛸殻町1-38-12

油商会館3F

TEL: 03-5642-3700

FAX: 03-5642-3714

JSCR Newsletter 編集委員会

加藤 晃一

蟹江 治